

6. 京都 葵 祭

2010. 5. 15.



葵は、カツラの葉にフタバアオイを簪着けたもので、祭りにながわる人びとや、社殿などにフタバアオイや、カツラで作った 葵を飾ることから、葵祭と呼ばれる。



新緑の5月15日わが国の祭の中で最も優雅で古趣に富んだ祭として知られる京都「葵祭」を見物に出かけました。

葵祭は、6世紀に天皇が下鴨・上賀茂両神社に勅使を送って五穀豊穡を祈ったのが始まりとされ、約1400年の歴史があり、古くは賀茂祭又は北の祭とも称されてきた下鴨神社と上賀茂神社の例祭。平安遷都の後山城国の守護神となり、両神社に嵯峨天皇の皇女 有智子(ウチコ)内親王が斎王として仕え、以来 斎王が詣でた葵祭は国を挙げての祭となった。

束帯姿の近衛使代や十二単の斎王代など王朝絵巻差ながらの葵祭の行列が、都大路を進む道中を路頭の儀といい、下鴨、上賀茂両神社で行われる社頭の儀を行うためのプロセスで、源氏物語や枕草子にも登場する。行列は 近衛使代(勅使代)を中心とした本列(男列)と斎王代に従う斎王代列(女列)の総勢約500名が華麗な装束で頭にフタバアオイを挿し、美しく飾られた車(牛車)、馬そして 斎王の乗る神輿などからなり、約1kmのパレードが京都御所を出発して、下鴨神社を経て、上賀茂神社へ向かう。



葵祭の名の由来となった植物「ふたば葵」

葵祭では二葉葵や二葉葵と桂の葉を組んだ葵桂（きっけい）を祭りに参加するすべての人たちの頭や胸元・腰に飾ったり、腰輿や牛車に飾りつけることから「葵祭」と呼ばれ、下鴨・上賀茂神社の御神紋にもなっている「ふたば葵」という植物。その由縁は「吾に逢いたければ葵を飾り、祭をして待てば地上に降りよう」との御神託があり、「神の守護を受け、神と共にありたい」との願いから葵桂を身につけるといふ。



ふたば葵



桂の木の葉（葵の葉とよく似ている）



葵桂の挿頭



葵祭で頭や胸などに飾り付けられた葵桂 2010. 5. 15. 葵祭で

昔はいろいろな場所に群生していたようですが、最近ほとんど見かけなくなり、希少価値に。数年前から 我が家でも株を分けてもらって家内が育てています。

一本の茎がずっと伸び上がり地上から数センチのところまで二股に分かれ、それぞれの先端に5～10センチほどのハート型の葉を対極に2枚つけるので、「ふたば葵」と呼ばれています。



ふたば葵



下鴨神社 御神紋の二葉葵

水はけの良い林で群生。地上を茎が這うように広がり、身近な照葉樹の林の中で、冬から春にかけてはたっぷりと陽を浴び、初夏から秋にかけては木陰で成長。少し前までは身近な自然の中で当たり前に見ることができたこの植物ですが、最近ほとんど見かけなくなり、希少価値の植物であるが、眺めていると心とらぐハートの形の葉である。なおこの二葉葵は下鴨・上賀茂両神社の御神紋ですが、貴船神社や秦氏と関係が深い松尾大社や蚕ノ社なども御神紋となっている。また、下鴨神社近くの出町にあるまめ餅で有名な「ふたば」の屋号も「二葉葵」。二葉葵の屋号が入った看板が大きく掲げられている。



出町のまめ餅「ふたば」



二葉葵の屋号の看板が掲げられている

葵 祭

御所から下鴨神社へ向かう本列（男列）と斎王代に従う斎王代列（女列） 2010. 5. 15.

5月15日 快晴 の絶好の日和 予定では葵祭の一行が御所を出発するのが、10時30分で下鴨神社到着が11時40分。

我が家に育つ二葉葵をながめていて、ふと思いついた久しぶりの京都葵祭の見物である。

10時過ぎに緑に包まれた糺の森・下鴨神社が葵祭見物が一番と糺の森にいったのですが、行列が通る糺の森の参道には有料の観覧席で埋められていて、無料の人たちは西側隣の参道樹木の間から観覧席越しに眺めるように変っている。これではまじかに眺められない。やっぱり有料で費用捻出のためには仕方がないのかも……。賀茂川の土手を行く行列もきれいなのですが、午後になってしまう。御所から下鴨神社へ向かう行列をじっくり眺めたいと出町へ行く。

下鴨神社の直ぐ南 賀茂川と高野川の合流点にかかる出町橋の西詰め。河原町通りを上ってきた行列が出町のこの西詰めで端に向かって曲がる地点である。葵祭とは関係ないが、北に伸びて若狭小浜へ至る「鯖街道」の起点でもある。

今日は本当に新緑が気持ちがいい。大文字山が美しい。



出町 出町橋西詰 T字路の角の路肩で騎馬警官先導の行列到着を見る 2010. 5. 15.

沿道には多くの人たちが行列を待っているが、出町から東の出町橋へ曲がる角の横断歩道の横の狭い部分が空いていた。交通整理の警察官が立っていて、横に横断歩道なので敬遠された一等地。横断歩道に拡がらなければOKだと警察官も言う。ラッキーである。到着には少し間があるが、見ている間に周囲は人で一杯である。

ちょうど向かい側川原町沿いが豆餅の「ふたば」で直ぐ南が鯖寿司の「大岩」。「ふたば」には今日も長い行列である。

11時15分を回って ちょっと遅れ気味で騎馬警官に先導されて 葵祭行列の先頭がやってくる。

まずは 近衛使代（勅使代）を中心とした本列（男列）が続き、其の後に斎王代に従う斎王代列（女列） 約1時間の王朝絵巻がまん前で繰り広げられてゆく。



牛車



飾り馬に乗る近衛使代

葵祭 本列 武者の行列が続いたあとに牛車が続き、本列の終わりにきらびやかな馬に乗った近衛使代（勅使代）が行く

こんなに沢山の人が頭に「葵」の飾りをつけていたのか・・・と記憶との違いにもびっくり。また 以前見た時とは格段に装束が美しいのにびっくりする。

また、葵祭の行列は音もなく無言ですすんで行だけなので、派手さはなく、行列の集団がとぎれると何かまのびした記憶にあるのですが、今日はまったく無し。「ふたば」で貰った下賀茂神社の葵祭冊子には「徒然草」に葵祭を「だらだら祭」として 行列が来ると棧敷に出てきていってしまうと家の中に入って酒を飲むなどする」との見物の様子が書かれているが、今日はまったくそれは無し。最後まで見ました。見る方の気持ちで随分変わるもの。本当にこんなにきれいだったのか・・・と。

本列が通り過ぎると今度は斎王代を中心とした斎王代列（女列）がやってきた。鮮やかな十二単の衣装の胸に「葵」が付いている。騎乗の美女の胸にも



鮮やかな十二単をまとった胸に「葵」

斎王代を中心とした斎王代列（女列）



斎王代の乗る神輿



斎王代列（女列）

約1時間ほどで 行列は出町の角を東に折れて、出町橋を渡ってゆく。橋の直ぐ北がもう糺の森。下鴨神社の神域に入っ
てゆく。今まで抱いていた印象とは違ったすがすがしい気分の葵祭。
やっぱり、糺の森の中を行く葵祭の行列も見たいと糺の森へ急ぐ。



賀茂川と高野川の合流点 出町橋を行く葵祭の行列 2010. 5. 15.

ちょうど 斎王列の牛車が新緑の中を下鴨神社の社殿へ向かうところであった。

多くの人で 参道には近づけなかったが、緑の中をゆったりと進む斎王列を眺めることが出来ました。



緑の森 緑の中をゆったりと進む斎王列 牛車 2010. 5. 15.

久しぶりに見る葵祭 葵がきれいな飾りとして身につけた優雅な王朝行列がゆったりと進んでゆく。

家にある二葉葵の縁で思い立って見に行った葵祭。 新緑に浸って 本当にすがすがしい葵祭でした。

また、出町の角 横断歩道横に立つ警官の人が「みんな 仲良く見てもらうのが一番」と言い、横断歩道に止めて見る車椅子

の人を排除せず、自分の立つ横断歩道脇に入れ込んでくれたことも、一層この葵祭を気持ちの言い気分にしてくれました。
 下賀茂神社を出てから、久しぶりに松ヶ崎をゆっくりと歩いて松ヶ崎大黒天まで行って、バスで帰りましたが、 バスの中からも賀茂川の土手を上賀茂神社に向かう葵祭の行列を眺めることが出来ました。
 気持ちのいいときはこんなもんで、これもラッキーでした。
 新緑の中での本当に素晴らしい一日でした。



賀茂川の土手を上賀茂神社に向かう葵祭の行列 2010. 5. 15.



葵



葵は、カツラの枝にフタバアオイを巻き付けたもので、祭りにかかわる人びとや、社殿などにフタバアオイや、カツラで作った、葵を飾ることから、葵祭と呼ばれる



京都 葵 祭 2010. 5. 15.



【参考】

平成 22 年 葵 祭 賀茂御祖神社（下鴨神社）

葵 祭

2010.5.15.



葵祭は、カツラの枝にフタバアオイを簪ぎ付けたもので、蒸りにかわる人ひとや、社務などにフタバアオイや、カツラで作った 葵枝を贈ることから、葵祭と呼ばれる。



桂の葉



ふたば葵















桂の葉



ふたば葵



葵



葵柱は、カツラの枝にフタバアオイを巻き付けたもので、祭りにかかわる人びとや、社殿などにフタバアオイや、カツラで作った、葵柱を飾ることから、葵祭と呼ばれる